



西浮通信

令和5年10月31日
NO. 396
東京都北区立西浮間小学校
校長 小島 みつる

読書の秋

副校長 富田 暁子

先日の運動会は、急な変更がありましたが無事終わることができました。どの学年も運動会は達成感や充実感があふれていました。保護者の皆様、地域の皆様の拍手や応援に子供たちの一層輝く笑顔が見られ、発表の場があることの有り難さが思われました。多くの方のご理解ご協力をいただき、ありがとうございました。

読書の秋、みなさんはどんな本を手に取りましたか？私自身は子供の頃、読書をするのが好きだったのに、大人になってしばらく読書とは縁遠い生活をしていました。仕事に関する本以外のものをまた手に取るようになったのは、電車通勤が始まった昨年からです。幸運なことに近所に区立図書館があるので、週末に行っては本を選び、読書を楽しんでいます。

読書をする良さは私は次の3点があると考えています。まずは未知（未経験）のことも含め、「多くの世界を知る」というよさです。子供にとっては経験したことが理解の幅や深さに大きく影響しますが、年齢が上がるにつれ知識の全てを経験することは難しくなります。知識として知っている、何を言い表そうとしているのかわかるようになるのが読書を通してだと思えます。また、校内の子供たちの様子を見てみると、理解しているのに言い方が分からず困っている子、友達との間で詳しく自分の気持ちや理由を伝えられず、行き違いが起きて悩む子に出会います。言いたいことを表せる語彙をもっていると、困ることも減るでしょう。自分のことを伝えるための語彙も読書を通じて大幅に増やしていけます。

次に、「情報を得て活用する力を付ける」ことが読書の効果によるところが大きいと考えています。ICT端末が普及し、私たちの周りには情報があふれています。その中から自分にとって必要な情報を探る力はこれから社会に出ていく子供たちには必要な力となるでしょう。じっくり読む読み方、多くの文章を読んで必要な情報を取捨選択する読み方、どちらも経験させたいものです。

そして、読書には「本の中に自分を見つける」という意味があると考えます。

- ① 興味・関心をもって本を選ぶ・開く ②集中して思い切り読む ③文章等から作者のメッセージを感じる ④自分の思いや考えを深める ⑤得た情報や想像力により、自分の考えが明確になる

本との出会いが自分自身を振り返るきっかけになることは、多くの方が経験しているのではないのでしょうか。

西浮間小学校でも読書活動を充実させるべく、様々な取組をしています。読み聞かせだけでも、図書支援員、ボランティア「さくらんぼの会」の方々、担任以外の先生方、お昼の放送での児童の委員会活動とあり、本への関心を高めようとしています。また、図書ボランティアの方々や図書支援員が時事問題や季節に合わせて図書室に飾りやテーマ性をもったコーナーを設置し、豊かな読書環境を作ってくださっています。

文科省の調査によると、子供たちが読書をするのは、「自分の家や友達の家（82.7%）」「教室（54%）」「学校の図書館（39%）」「町の図書館（18%）」とあります。子供たちが読書をする場所は「家」であることが多いようです。また、他のデータもありました。「親が多く読書する家庭ほど、子供も多く読書する傾向にある」というのです。我が子には「勉強なさい」は言うのに「一緒に読書タイムにしよう」とは話しておらず、大いに反省しました。

ご家庭におかれましても、子供たちが読書に親しめるよう、保護者の皆様もご協力をお願いします。

〈出典〉文科省 HP、学研総合教育研究所 HP

【図表1】 「保護者の読書量」と「子どもの読書量」の関係 (冊/月)

